

平成 29 年度第 2 回三条市教育事務点検評価委員会会議録

- 1 開会宣言 平成 29 年 8 月 18 日（金） 午前 9 時 30 分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎応接室
- 3 出席者 雲尾委員長、岡田委員、五十嵐委員
- 4 説明のための出席者
長谷川教育長、栗山教育部長、遠藤教育総務課長、栗林子育て支援課長、
高橋小中一貫教育推進課長、吉川教育センター長、金子生涯学習課長、
渋谷教育総務課課長補佐、大谷教育総務課庶務係長
- 5 傍聴人 0 人
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 議事
ア 平成 29 年度教育に関する事務の点検及び評価報告書（案）について
 - (3) 閉会
- 7 会議の経過及び結果
 - (2) 議事
ア 平成 29 年度教育に関する事務の点検及び評価報告書（案）について
 - ・小中一貫教育推進課所管分について、高橋小中一貫教育推進課長及び吉川教育センター長が説明
(雲尾委員長)
小中一貫教育推進課所管分につきまして、御意見や御質問がありましたらお願いいたします。
 - 最初の見え消し修正版の方で言いますと、1、2 ページの部分ですね。よろしいですかね。再度のものはございませんかね。見え消し修正版及び修正シート 3、4 ページ、いずれもここにございますが、これにつきましていかがでしょうか。
 - 4 ページの第 1 指標の「指標に対する評価」の朱書き部分で「また、発行回数が少ない中学校においても」とありますが、これは「中学校区」ですかね。
(高橋小中一貫教育推進課長)
すみません、ここは「中学校区」です。
(雲尾委員長)
「区」ですね。では、4 ページの修正シート、赤字で「発行回数が少ない中学校区においても」ということで、「区」が入るということをお願いいたします。

1－(2) よろしいですかね。

1－(3)でございます。1－(3)の前回修正いただいたんですが、その時は気付かなかったんですが報告書になって読んで見ると、1－(3)ですから5ページですかね。5ページの「今後の推進方法」のところですが。

(遠藤教育総務課長)

委員長すみません。今、こちらの意見に対する修正シートの御説明をさせていただいた段階ですけれども、取りあえず併せて評価報告書の方も同じ部分をまずは説明させていただきたいと思います。よろしいですか。

(雲尾委員長)

では、報告書も含めまして1、2の10項目について再度確認いたします。(1)、(2)につきましては先ほど確認しましたので、1－(3)からでよろしいですかね。

(岡田委員)

1－(2)を質問してもよろしいでしょうか。

(雲尾委員長)

はい、どうぞ。

(岡田委員)

5ページの「今後の方針」にコミュニティ・スクールのことが出てきますが、「30年度までに市内全小中学校への導入準備を目指す。」ということですがけれども、現在はどんな状況なのか教えていただけますか。

(吉川教育センター長)

平成29年度は栄中学校区4校と大島中学校区3校の計7校でコミュニティ・スクールを導入し、今、モデル校として検証しております。あわせて、市内の教職員、地域の方々に研修等を昨年度2回、今年度1回行っております。

(岡田委員)

今後どんなふうになるのかという見通しが分からなかったのです。

(雲尾委員長)

内容的にはよろしいですかね。

(岡田委員)

はい。

(雲尾委員長)

では、1－(3)につきましてはいかがでしょうか。

報告書6ページの「今後の方針」の4行目、「主体的な学びができるような研修となるよう」とありますが、「主体的な学びができる研修となるよう改善を行っていく。」

ということで「ような」の3文字は取っていただいて。

(吉川教育センター長)

はい、分かりました。

(雲尾委員長)

これにつきまして事後評価シートの方も修正いただきたいと思います。

(岡田委員)

6ページの評価Bのところの下から2行目、「また、教科総合(4教科)も偏差値50をやや下回っている状況である。」とありますが、これは小学校も中学校もという意味でしょうか。それとも中学校だけということでしょうか。

(吉川教育センター長)

中学校だけでございます。

(岡田委員)

中学校だけが偏差値50をやや下回っている状況というのは、4教科を合わせてということですね、教科総合というのは。

(吉川教育センター長)

はい。そういうことでございます。

(岡田委員)

そうすると、国語は目標値に達していて数学は達していないということで、他のものもやや下回っているというふうに解釈してもよろしいでしょうか。

(吉川教育センター長)

はい、同じく理科、社会についても50を下回っているので、平均すると50を下回っているということです。

(岡田委員)

7ページの「今後の方針」のところで、「児童生徒、教職員が変わっていく中で」というのは、変わるというのは入れ替わるということですね。人が変化していくということではないですね。もうちょっと分かりやすい、入れ替わるというようなこと。

(雲尾委員長)

「入れ替わっていく中で」となると、かわるも変ではなくて交替の替ですかね。

(吉川教育センター長)

「入れ替わっていく中で」という表現に直したいと思います。

(雲尾委員長)

シートの方も修正していただくということで。報告書はほぼシートの文を持ってきていますよね。ということで、シートの方も直していただくことをお願いします。

(吉川教育センター長)

はい。

(雲尾委員長)

報告書の6ページの注の※5のところ、最後「妥当性と信頼性が保証されているため」とあるんですけど、妥当性や信頼性は保証ではなくて、「性」なので「信頼性が高い」ということではないかと思います。

(吉川教育センター長)

妥当性と信頼性が高いため。

(雲尾委員長)

1-(4)はよろしいですかね。

では、1-(5)について、いかがでしょうか。

(岡田委員)

評価のところの3行目ですが、「深めよう絆スクール集会」というのは、上の方では括弧が付いているので、ここも括弧を付けたりして統一した方がいいかなと思いました。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。基本方針と合わせたいと思います。

(岡田委員)

もう一ついいでしょうか。下から3行目「関わり合いの中での主体的・対話的な活動と相手の立場に立った言動のあり方」というので、「関わり合いの中での」というのが「主体的・対話的な活動」というのと「相手の立場に立った言動のあり方」と二つに係ってくるのでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そのように考えております。

(岡田委員)

関わり合いっていうか、相手の立場に立った言動というのと、こちらの修正の方では配慮のスキルのところを受けてのことですよね。何か関わり合いの中でのという、これ、みんなそういう人間関係のスキルなので、そういうのもあるかなと思いますが、関わり合いの中ということよりも、思いやりとかルールみたいなものも入ってきますよね、この中で。そうすると「関わり合いの中で」というと違和感を感じるのですが。

(高橋小中一貫教育推進課長)

関わり合いのスキルと配慮のスキルなので、関わり合いがここに入ると配慮のスキルという意味の意味合いがちょっと混乱してしまいますので、逆にこれを取った方が分かりやすいでしょうか。

(岡田委員)

「相手の立場に立った言動のあり方」というのを前に出して、それと「関わり合いの中での主体的・対話的な活動」、これは表現力になるんですよ。これがその後の。というふうにした方が分かりやすいかなと思っているんですが、どうでしょうか。

(雲尾委員長)

関わり方のスキルと配慮のスキルでは、関わり方のスキルを先に書きたいという趣旨ですかね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

指標の順がそうだったものですから、そのような形になったのですが分かりにくいかもしれません。

(岡田委員)

私だけかもしれないですけど。

(雲尾委員長)

「関わり合いの中で」という言葉が両方に係るように見えますのでね。シートの第一指標で配慮のスキル、第二指標で関わり方のスキルを進めてはいますよね。ですので、おっしゃるように「関わり合いの中で主体的・対話的な活動」という言葉と「相手の立場に立った言動のあり方」というのを入れ替えれば誤解は防ぐということで。

(岡田委員)

はい、誤解は防げるかな。両方とも人間関係スキルなんですけれど。その辺の専門の方に聞いて、ちょっと検討いただければと思います。

(高橋小中一貫教育推進課長)

前後を入れ替えさせていただくということでお願いします。

(雲尾委員長)

1－(5)はよろしいですかね。

では、1－(6)でございますが。

(岡田委員)

「1学校1取組」というのは、県の取組と同じ取組ということですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい、県が推進している取組です。

(岡田委員)

県の取組をここへ持ってきたということでもよろしいですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうです。

(岡田委員)

分かりました。

(雲尾委員長)

内容的にはよろしいですかね。

では、2-(1)「ICT、グローバル化に対応した教育の推進」でございますが。

(岡田委員)

10 ページの「今後の方針」のところで、「中学校教員の数値が低いので」ということですが、これは数値が低いというのは分かるんですけども、つまり能力、授業中に ICT を活用して指導する能力が低いというふうに捉えていいのでしょうか。それとも、そういう何か環境が整っていないとかそういうことでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

能力ではなくて、活用の頻度が数値的に低いということになります。

(岡田委員)

そういうことを書いておいた方がいいのではないかと思います。

(雲尾委員長)

このままの文章ですと何が低いかは分からないですね。数値が低いというだけで何の数値かは分からないですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

この数値を活用頻度というふうな形に書き換えると分かりやすくなりますでしょうか。

(雲尾委員長)

活用頻度なんですね。シートの方ですと、14 ページの第 1 指標ですかね「小学校 78%、中学校 63%」、これのことを指していることではなかったんですか。頻度ですかね。これは肯定的評価ですよ。授業中に ICT を活用して指導する能力、これが低いってことではなかったんですね。頻度ですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。能力そのものではなくて。

(雲尾委員長)

第一指標では小学校 78%、中学校は 63%ということで、授業中に ICT を活用して指導する能力の肯定的評価が、中学校が非常に低いということで読み取っていたんですけど、これではなくて頻度なんですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

指導する能力を測るための調査項目は、能力そのものというよりも活用実態に応じる

ものになっているので、そのところがちょっと解釈として難しいのですけれども。ここで単純に能力が低いとなると、少し誤解が出てきてしまうなという気がしまして。

(雲尾委員長)

ただ、そのシートから言えば第一指標を見て、この「今後の推進方法」につながるわけですよね。頻度そのものはシートに出てきてないので、指標として。そうすると、なぜ、頻度自体は指標に出さないのかということになってしまうんですけど。

(岡田委員)

肯定的評価はどんな評価項目だったのでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうですね。その評価項目が。

(岡田委員)

これを使おうという意欲というか、そういうことなのか。

(雲尾委員長)

だから、活用して指導する能力の場合に、その指導能力というよりは活用回数が少ないという解釈なんですよ。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうなんですね。

(岡田委員)

それが分かるように書いた方がいいと思います。

(雲尾委員長)

だから、それが低いということで、指導するのは能力を上げるよりも活用するようにという指導をするということなんですよ、研修としてはね。

(岡田委員)

そういうことですね。

(雲尾委員長)

ですから、第一指標になっているのは、授業中にICTを活用して指導する能力の設問が分からないと、解釈がそうなるということが分からないですね。

(岡田委員)

分からないから、設問をもう一回ちょっと見た方がいいかもしれないですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

相当多くの質問項目がありまして、ざっくり言うと、要するに有効活用ができていのかどうかということの質問が多く出ているんです。ICTを活用するとか、デジタル黒板を活用するとか、そのスキルの能力が高いとかということでは決してない部分があり

ますので、ちょっと表現を少し考えて分かりやすくしなければいけないかなと思います。

(雲尾委員長)

今、御説明の中であった有効活用度ということであれば分かるわけですよ。 「授業中にICTを活用して指導する能力(有効活用度)」ということであって、そうすると今後の方針の中で「小学校教員に比べ、中学校教員のICT有効活用度の数値が低いので」とおっしゃるのならば分かるんですけど。

(高橋小中一貫教育推進課長)

では、その表現でよろしいでしょうか。

(岡田委員)

その方が分かりやすいと。

(高橋小中一貫教育推進課長)

では、有効活用度という表現をさせていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

では、シートの方もそのような形で修正を加えていただきたいと思います。2-(1)はよろしいですかね。

2-(2)「市民性を高める教育の推進」についてはよろしいですか。

2-(3)「社会で自立するための特別支援教育の充実」でございますが。

施策の基本方針ですけれども、11ページの報告書ですね。「法制化されたことにより…実施等により」というふうに「より」が重なるので、最初の「法制化されたことを受け」ですかね。「受け」と修正していただくといいのではないかと思います。

(高橋小中一貫教育推進課長)

3行目、修正させていただきます。

(雲尾委員長)

そうですね。「合理的配慮の提供が法制化されたことを受け…」であれば、以下、「より」はそのままでいいかと思います。

シートを修正していただいて、18ページの修正シートに新しく加えていただいた文章ですね。「しかし、4校が達成できなかったことを重く受け止め、適切に学校を指導する。」となっているんですが、これですと、実態としてはそうなのかもしれないんですけども、学校だけが悪いような書き方にどうしても受けてしまうので、「重く受け止め」の後ですね、「全校が実施できるように学校を支援する。」といったような形で。

「適切に」の部分を「全校が実施できるように」と変えて、「学校を指導する。」の部分の「指導」を「支援」にさせていただく方が良いのではないかと思います。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そのように修正させていただきます。

(雲尾委員長)

2-(3)はよろしいですかね。

2-(4)につきまして、いかがでしょうか。

先ほど報告書の13ページをお読みいただいている時に、御自身でもちょっと修正されたと思いますが、平成28年度における評価の「会場までの距離があるために参加できない児童生徒がいるため」ということで、この「ため」が重なっているということで、口頭で言われた時は「児童生徒が」、最後の方で変えられました、変えるならば最初の「距離があるために参加できない」ところを「距離があり参加できない児童生徒がいるため」、その方が修正に無理がないかと思います。「会場までの距離があり参加できない児童生徒がいるため」ということで、修正いただきたいと思います。

(五十嵐委員)

今後の方針で、「会場を増設することで」とあるんですけども、現在どのぐらいの会場があるんですか。

(吉川教育センター長)

現在、学びのマルシェを開設しているのは、この教育センター会場、それから一ノ木戸小学校、嵐南小学校の会場、下田公民館、そして、今年度から井栗集会所ということで5会場でございます。

将来的には全ての中学校区というか、全ての学園で開設できればというふうに考えておりますが、集まる児童生徒数にもよりますので、例えばバス輸送とかも含めて、今後、全ての子供たちが参加しやすいような方策を考えていきたいと考えております。

(五十嵐委員)

例えばそれを、今後の方針として具体的に入れるといいのかなと私は思ったんですけども。

(雲尾委員長)

ほかはよろしいですかね。

・生涯学習課所管分について、金子生涯学習課長が説明

(雲尾委員長)

それでは、3-(1)からお願いいたします。何かございましょうか。3-(1)についてはよろしいでしょうか。

次に、14、15ページ、3-(2)でございますが、いかがでしょうか。

(岡田委員)

15 ページの主な事務事業の①きっかけの一步事業、これは高齢者ですよ。高齢者ではない。

(金子生涯学習課長)

主にターゲットは高齢者ですけども、高齢者に限ったわけではなくて、一般の中高年齢者の方々の参加をねらっているものでございます。

(岡田委員)

高齢者に限ってないということになると、平成 28 年度における評価のところに「高齢者の外出機会の創出と…拡大」というふうに書いてあるということとちょっとずれちゃうんですけど。これは「主に高齢者の外出機会の創出」ということで、中年の方もどうぞというような緩い企画みたいな形でいいんですか。

(金子生涯学習課長)

主体が高齢者ですので、「主に」ということにさせていただければと思います。

(岡田委員)

分かりました。

(雲尾委員長)

平成 28 年度における評価の書き出しに「主に」を入れるということですか。

(金子生涯学習課長)

はい。評価の書き出しのところに「主に」を加筆させていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

今後の方針の中にある「次のセカンドライフ」なんですけれど、これは「次の」がいらないかなと思うんですけど。

(金子生涯学習課長)

はい、そうですね。削除します。

(雲尾委員長)

ほかはよろしいですか。

では、3-(3)につきまして、いかがでしょうか。よろしいですかね。

そうしましたら報告書が飛びまして 22 ページですね。6-(1)につきまして、いかがでしょうか。よろしいですかね。

6-(2)「埋蔵文化財の調査・保護」につきましてはいかがでしょう。

(岡田委員)

24 ページの評価の 5 行目「照会件数が、平成 28 年度 147 件あり」と書いてあるんですが、これは増えているというふうに解釈してよろしいでしょうか。増えているので仕組みが定着しているという感じでしょうか。

(金子生涯学習課長)

去年が129件でございましたので、増えていると言えると思います。ですので、「増えており」ということで、「28年度147件と増えており」というふうな形で入れさせていただきますればと思っております。

(雲尾委員長)

ということは、この増えているかどうかを目安にしてしまうと、要は不景気になれば減るので、そうすると認知度が下がったという解釈にもなってしまいますよね。要するに、開発件数分の照会件数というのが本来は数値としては必要なんですけど、開発件数自体が把握できるものなんですかね。

(金子生涯学習課長)

増えてはいますけれども、結局、申請と実施が100%という、全て実施したことが目標になります。要は、届出の対象に対して全部確認が終わったという評価になります。件数は増えているということは言えますが、今、委員長がおっしゃったように指標として増えているということを入れてしまうと、目標と違ったことになるので、できればこのままにしていただければと思っております。

(雲尾委員長)

ということでよろしいですか。6-(2)については、ほかによろしいですか。

6-(3)につきましては、いかがでしょうか。

(岡田委員)

25ページの評価の下の方に「ガイドブックの作成などを行い」ということなんですけれど、作成を行って、それをどこかに配布したということはなかったんでしょうか。

(雲尾委員長)

ガイドブックを作成してどうしたかという。報告書25ページの「評価」の下から2行目ですね。

(金子生涯学習課長)

そうですね。作成して配布しております。

(岡田委員)

配布しているのは、誰でも手に届くようにどこかに置いてあるとか、積極的に配布したとかを。

(金子生涯学習課長)

どこでも手に取れ、自由に持って行っていただけるという形にしています。

(岡田委員)

自由に持っていく。そういうことも何かこう適切に。

(雲尾委員長)

「作成など」。「など」の中に入っているというニュアンスではあるんでしょうけれども。

(金子生涯学習課長)

「作成・配布を行い」で。

(雲尾委員長)

「作成・配布を行い」ということで。

6－(3)はよろしいですか。

・子育て支援課所管分について、栗林子育て支援課長が説明

(雲尾委員長)

子育て支援課所管分につきまして、報告書は16ページに戻りまして、4－(1)につきまして、いかがでございましょうか。よろしいですか。

18ページ4－(2)について、いかがでしょうか。

(五十嵐委員)

評価をBにしてあるんですが、もう一回見てみると、目標が94%で実績値100%、去年から比べても89.4%から100%に上がっているんで、実際Aでもいいのではないかと思っただけですけど、いかがでしょうか。

(栗林子育て支援課長)

前回の会議の折に、実はそのような評価でということ御説明させていただきましたが、100%にはなったけれども、上がり幅を考えたときにBでいいのではないかという御意見をいただいた結果、Bとさせていただいたところでございます。

(雲尾委員長)

シートの30ページですかね、当該年度目標達成率が106%ですので、1割から2割くらい、120%くらいになるとAかなというのはありますが、10%前後ですと、逆に90%くらいだとCになってしまうとかいうことになってしまいますので、ほかをCにしないためにもBにするかなといったような話であったかと思えます。

そのほか、4－(2)はよろしいですか。

(岡田委員)

「要録」というのは、幼稚園だけではなくて保育所、保育園でも渡しているということでしょうか。

(栗林子育て支援課長)

そうでございます。

(岡田委員)

そうすると、全部の子供たちの「要録」は小学校にいつているというふうになるわけですね。

(栗林子育て支援課長)

そうです。

(岡田委員)

個別の発達支援計画が小学校に引き継がれるということは、それを基に個別の教育支援計画が引き継いでいかれるというふうに解釈してよろしいですね。

(栗林子育て支援課長)

そういうことです。

(岡田委員)

分かりました。

(雲尾委員長)

4－(2)はよろしいですかね。

4－(3)について、いかがでございましょうか。ここはよろしいですか。

・教育総務課所管分について、遠藤教育総務課長が説明

(雲尾委員長)

教育総務課所管分につきまして、御意見や御質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですかね。

(3) 閉会宣言 午前 11 時 03 分